

















朝日七十二  
(頁八で合併刊夕朝)

蘇學士

月二十六日は、夜祭の雨

乗<sup>カ</sup>り移<sup>カ</sup>る。此<sup>コノ</sup>日<sup>ニ</sup>例<sup>リ</sup>鮮<sup>ニ</sup>出<sup>ス</sup>る

して雨は一變して、雪に

途中の停車場にて、汽車

に氣附きづけり。乃すなはち廿日ふたじふけ

必らずしも、誇張と云ふ

無際雪紛紛。

全雨、唯だ山上に雪

秋に立ち返りたる心地

等車中に兀坐して、殆ど

半に沙河を發し、白蛇村

大正六年十月二十七日午前  
山梨県本多の二室にて

朝起き出で、温泉ホテル

に其の變化の、較著なる

建物は、殆んど皆無也。

出したる湯泉は、宛も予

自から西洋癡毒の上

ざりし也。而して當時の

[illegible]

新年詞壇叢集

改詩『海邊松』(戊午新年)  
原體 龍應意  
五言句『海邊松』(首一三)  
初句『陽初』二入五句以內

編輯十二月十五日用  
牛紙印京坂日中社編輯加新卒  
地條に宛て神稿の事

[illegible][illegible]







自由か、帝政か、その運命、何處へ

ルガに於けるケレンスキー氏の健  
在を事々しく報ずる有れば反兩  
ヶ氏遂に人心を収むる能はすとの  
事實を報じてゐるのである。この  
時、に於て亦近く純血スラブの隨將  
コサツクのカレンジ將軍の起星の  
如き帝政復興運動の喧傳さるゝ有  
つて益々その動亂を廣くし、深く  
しつたがある。果してカレンジ將

● **我が地震學上  
の一新紀元**

大正地震建設

神戸の萬志家岡縣藤吉氏の寄附  
によつて我が日本に世界一の大地震  
計を設置することは既報の通りであ  
るが、その東京都上野區村に  
設けられた地震學上

大地震計建

朔月の篤志家岡崎藤吉氏の寄附によつて我が日本に世界一の大地震計を設置することは既報の通りであるが、その長京都上賀茂村に設けられた該工事

なれり該觀測所に入つて

身の多に於ては、今も其を志願氏の語る處によると、何今日の世界の地盤學は行詰り云つた體で、少くとも今一層器械の力を借りるか、又は觀地盤より能く目的に附つた所設けるかしない以上、目星しい

◆新發見◆ 求むる露に依

ウチンゲン 大学の十六噸

この頃多い  
 新しい犯罪に  
 電話を利用する能抜け

電話を利用する能抜け

の詐欺に周旋料を騙取した或曲者の自白  
日小牟田本町署長談  
電話を利用するものには怎んがある、官吏は相當信用あるの名義を以て商品の計文を申込の意義にも横柄に又甚だ忙がし

の  
上

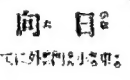
其の乗錢も共に持參  
よと申込み、店員が慌しく持つ  
行つた品物と剩錢とを指定した

運動を感ぜさせること

本邦のものが、ゲツチンゲン大學の地  
 計は、市中の瓦斯、エンチンの等  
 ざす、すべし、鋭敏に感應する、其の  
 ◆研究所と連絡を結ぶた  
 京都市下では、宇治郡宮津  
 に出張所のやうなものを設け、  
 井戸の不良の調査所にも相應な地  
 附を添附して貰ひたいと思つて  
 先般政府は補助銀貨に代用する爲  
 め臨時必要に隨ひ五十銭、二十銭  
 及び十銭の小銅紙幣を發行し以つ  
 て現今市場に於ける補助貨幣底の  
 乏に努力する所ありしが、兩三日  
 小銅紙幣(五十銭、二十銭の  
 一個十個)は銅貨の手を絶、  
 各地に放出せしに至るに  
 致しては空米米貯蓄の用

1

向日  
てに外門より来る。



逃走するといふ所謂逃げ

の蔵當である、或は金品持參の途  
中、で騙取して妾を贈ります曲れも  
ある、次は昨今の時候柄、嫁娶の取  
引に來たと稱し、煙突の一二本も携  
へ、貧乏などの主人の出動不在、妻  
女等に對し主人より依頼されし如  
く、口實を計りて、遠慮なく  
與座敷に上り込み、煙突を握へ附け  
、金く被奪者の續りない結果である  
次に、煙口を開旋するといふ者、  
で其の開旋料として金を握き上げ  
る事であるが、最近實際にあつた  
一例として、曲者の面白を聞くに、  
分ける某、曲者の首首に脚懸者が  
其の内に運動すれば差し替り、  
級加賀には離合した、就ては今日  
罷共、女二、男一に出向す、

勧め先き、妻女の行動

け口の通路<sup>どろ</sup>泥棒<sup>どろ</sup>は殊<sup>こと</sup>の戸口<sup>かど</sup>調査<sup>さぎ</sup>をなし置き、晝<sup>ひる</sup>間の空巢<sup>くわう</sup>ひをす  
るものもある、殊<sup>こと</sup>に妻女<sup>さいにょ</sup>の入浴<sup>にゅうよく</sup>は門<sup>かど</sup>より逃亡<sup>とうぼう</sup>したと云ふ事であつた

死に至らしめ、貴族は富貴

●列車の正面衝突

十六日岡山山の列車は中國經綸霧にて他の列車と正面衝突を爲し兩車共折損し停車せんとするなりしを以て機關車破滅し旅客の慘状を光る

深い山路の事であるから離家一つ見えない。三人は恐い／＼と云ひながら戒解を越して麓まで降りて來ると峠の上から何物か石をザブト振掛ける者があつた。三人は電氣に感じた様にヨロゾとして後を振り返つて見ると間の中から電光の光るものが落ちて光つた。三

海郡米面開也島を距る

浦合に九日午前三時、汽船數艘あり、阿波は朝鮮形船にして、萬を滿載し、船大三名乗込みて、同船を曳船し、日原に航行の途中、あつて、

地方に於て、保險募集、同船三輪より、船二三軒にて、大層なりと、大風呂敷を擡げて、遊興したるが其儘、道に費の支拂ひもなされ、羅面を日發して、成興に來りて、吉原を

支那公使館

[illegible]

に達せる状況を列車中と

日撃しつゝ來せりと(本電)  
 りしもの、如く同連合に差掛り  
 ぬかに風波漑しくなりたるより選  
 中附近の防壁に乗り上げ岩を以て  
 衝突し崩壊被破れ乘組船夫中一  
 人は溺死二名は幸うして波上に  
 浮び聞え品に漂著し島民に救助さ  
 れたりと

---

齒磨粉の製法  
 其の一二を略して見よう  
 密な粉を人々に用ひ易きにする  
 本社獨工業會社所屬の工場にて  
 之を製造するに先づ原料として  
 ある大粒の粉を少量あつて  
 煎かち他原料の五割である。此  
 の残り八人に一袋以上賣るもの  
 を初め精製し出せばあるがら  
 なく少し蒸つて賣らうとしても  
 大抵は駄目である。だから

と 世に濟すし民に助

●眞面目に之れを製造して事業をして見よと思ふ人があつた。それで、此の米穀賣の経験を以て、同所へは毎月謝金で出て置くとの事である。

●大尉照錢遊興  
 遊樂生命保險會組織員と自稱する阿部大助(三)は、過日、來成北羅に

●五名の鮮少女米國へ密航  
 せんとして露顯上海より送還

眞子(まこ)の五少女は上  
目同港出帆のチャイナ

米國に渡航せんとする海上の華僑手荷物を持へ居る外各々歸  
 郷事務の取調に逢ひ海外渡航の  
 旅費を所持し  
 圓以上千圓迄の  
 相當なる家庭の婦女子なりと  
 旅費を所持し居らざるを以て抑留


「そんなに執念深く候

往つた方が好いぢやないか」と  
語の様に云つた。そして側を見  
ると自分等に跟いて來た虎が何時  
間にか姿を隠してしまつた。一緒  
跟いて來た虎が急に姿を隠すの  
これは、乾度儀手に背掛かる身接  
するのだなと思つて三人は、急に  
大を感ぜたりしがし三人は村に

新加坡海墾料附屬字號 新嘉坡元利藥房

自來水

藥



たそうだが、虎も人間の

生菓子  
賣始め  
(洋名ベツ)

乳助木、子母木、實費、

京坂本町一丁目  
電話貳貳  
**明治屋**  
資内省  
南川邊

少し早レに衣そへたハ

内地の景氣も殆んど稲作の折  
 であるから京城は勿論朝鮮各地  
 のところの地價が昨年の今頃に  
 比べると約一割五分位は上つてゐ  
 る。但し實際はまだ内地の賣  
 土の如き有様家々に對する

鮮會

袖珍鐵クロ一

本書は凡そ社  
 本は高き程度の會話書に  
 之を一つ

併し實際は未だ内地の

に金を持つて來てゐないから地に  
を幾ら上つたぞ云ふ聲のみで事  
の取引は大して上つてはゐない  
附し乍ら地主や家主の無息は  
驚き、是まで开ん方例の無い家  
の敷金を取るさといふ新例を始め

本書内鮮人を問  
たり本書は各學校  
一般に鮮語を

本書に規  
げたる  
一

あけのぼしは大に注目され、  
家であらう。

●正誤 二十六日附夕刊二面「江の堅氷」記事中鋭敏は鍾敏の植に付訂正

●發行所 振替京城  
●特約店 振京

**淋病の新藥 ツヨール**

高崎博士創製のアドラは、世界の最新薬品で、アドラを。一服として、製せい最良の目薬にして、はやりの。充血、たれもの。ほしめ。ため。やに。トラホーム、ものもらひ、くもり等の眼病に卓効あり。

(定價) 小瓶 金十銭 大瓶 金二十五銭  
東京室町 泰昌製藥株式會社

或下山藥學博士豊松醫學博士時田市中醫院院長上野朝比奈藥學博士宮川醫士檢定▲本品は殺菌力を有するが、去る廿一日午前八時に海軍が、る村娘吉三云ふ女の兒あり生活能を取探中。舞鶴様に潜伏中取押へ引致しの爲め十一月十三日甲斐夫の留守中。べ中なるが寢金は僅かに百三圓餘里河津に娘を伴ひ行き何気な

**生菓子 賣始め申候**  
(洋名ベネトリ)

お馴染のシュークリームを始め其他各種毎朝製造新鮮のもの調進仕候に付御用命願上候

京坂本町一丁目  
**明治屋支店**  
電話貳貳貳番 七五貳貳番



**鮮日會話精通**

●最新刊

**特約所 振替京城三五七三番 大阪屋號**

補珍綴クロース美本 七百餘頁 定價金壹圓參拾錢

本書は高等程度の會話書にて現今行はるゝ會話中に發見する能はざる必須語を多數に掲載せり。本書は凡そ社會全般の事物を網羅し盡して收めたる之を一つの國鮮語辭書として見る事を得べし。本内鮮人を問はず通譯事務に従事する人の最新。本各學校の會話教材に最適當の事項を集めたり。本各各種講習會の良參考書なり。

茲に朝鮮語を以て今一層確實に研究せむとす速に本書を購求して應右に備へらば、朝鮮語の通曉に本道に依りてのみ極むる事を得む。

一般に鮮語を解し得たりとするも其の智識のみにては甚だ覺束なきものならずや本書は貴重なる新澤語を以つて充滿せり。

茲に朝鮮語を以て今一層確實に研究せむとす速に本書を購求して應右に備へらば、朝鮮語の通曉に本道に依りてのみ極むる事を得む。

發行所 振替京城三五七三番 京城日報社代理部 大阪屋號



